

5. プロジェクト

5.1 プロジェクトの考え方

3つの基本方針ごとにプロジェクトテーマを設定し、これに対応する具体的なプロジェクトを実施していきます。

このプロジェクトのうち、次の視点から他のプロジェクトを牽引していく重点プロジェクトを位置付け、重点的に取り組んでいきます。

【重点プロジェクト選定の視点】

1. 事業効果が大きいこと
2. 他のプロジェクトとの関係性が多いこと
3. 基本方針を跨って影響を及ぼす事業であること

また、プロジェクト間の関係性やプロジェクトの実施時期や効果が発現する時期を示したロードマップを作成し、以下の考え方に基づき整理しました。

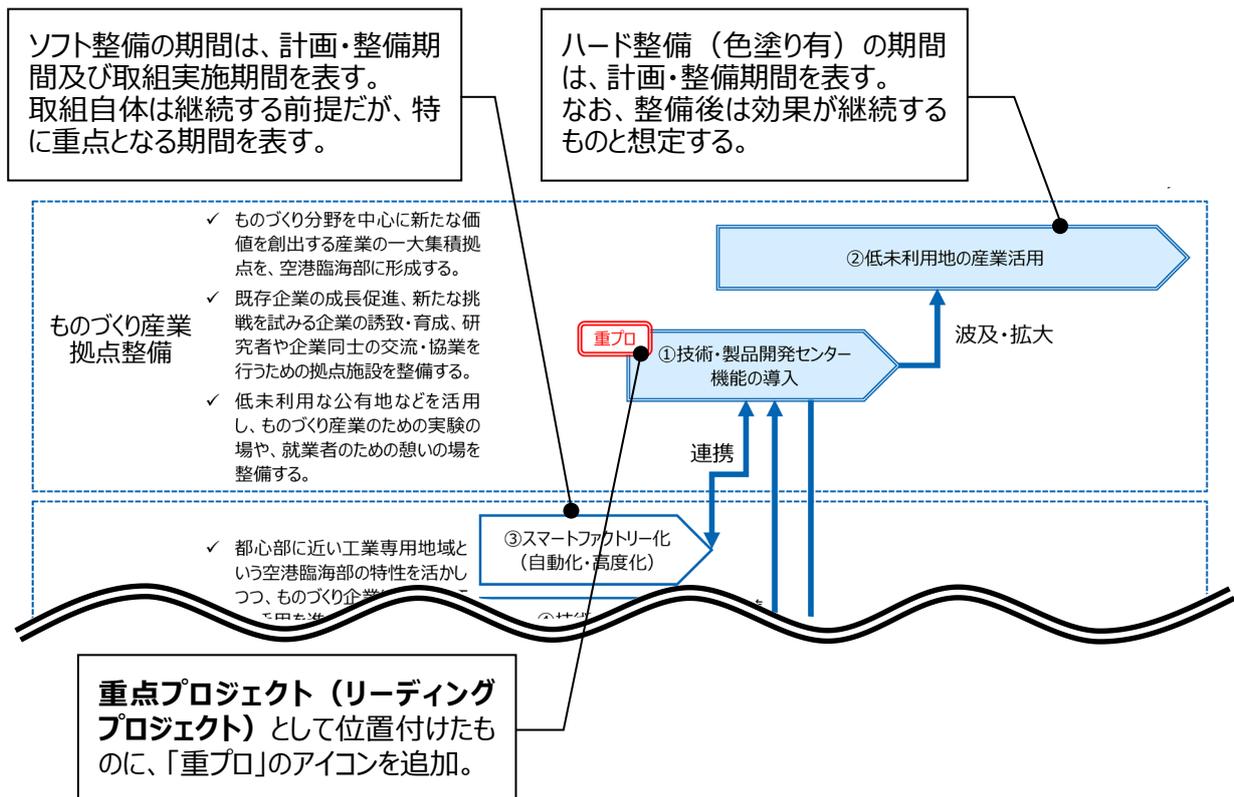


図 5-1 重点プロジェクト及びロードマップの考え方

5.2 プロジェクトの内容

基本方針①：高度な産業の集積拠点、基本方針②：人の活動と自然の調和、基本方針③：次世代のインフラ整備の3つの基本方針ごとに、4つのプロジェクトテーマを設定し、全部で34のプロジェクトとしてまとめました。

基本方針	プロジェクトテーマ	プロジェクト	
高度な産業の集積拠点 基本方針①	【1】ものづくり産業拠点整備	① 技術・製品開発センター機能の導入	重プロ
		② 低未利用地の産業活用	
	【2】産業競争力強化	③ スマートファクトリー化（自動化・高度化）	
		④ 技術活用・事業承継支援	
	【3】働く場の魅力化	⑤ 「子育て」環境の整備	
		⑥ 「憩い」「食」の場づくり	
		⑦ 次世代の就業環境の整備	
		⑧ 就業者同士の交流環境の整備	
	【4】港湾・先端テクノロジーの実装	⑨ 次世代の港湾・物流機能の導入	
		⑩ 先端テクノロジーの実装	重プロ
		⑪ 強靱な港の整備・憩いの空間の創出	
人の活動と自然の調和 基本方針②	【5】海と緑のレジャー環境整備	⑫ 既存公園・緑地の魅力創出	
		⑬ 「賑わい」創出のための施設整備・機能強化	重プロ
		⑭ 水辺と水域の賑わい創出	
	【6】観光コンテンツの創出・活用	⑮ 工場・倉庫等の多面的活用	
		⑯ 既存観光コンテンツ活用による賑わい創出	
		⑰ 見て・触れて楽しめる周遊ルートの整備	
	【7】自然環境共生	⑱ 生物多様性に関する普及啓発	
		⑲ 希少な自然環境の保護・再生	
		⑳ 水と緑のネットワークの形成	重プロ
	【8】脱炭素社会の推進	㉑ 脱炭素化の推進	
㉒ 次世代エネルギーインフラの整備支援			
㉓ 循環型社会の実現に資する技術開発支援			
次世代のインフラ整備 基本方針③	【9】交通ネットワークの強化	㉔ 「東西軸」の強化・形成	重プロ
		㉕ 「周遊軸」の強化・形成	
		㉖ 「南北軸」の強化・形成	
		㉗ 羽田空港へのアクセス強化・形成	
	【10】拠点機能強化	㉘ 防災拠点機能の強化	
		㉙ 交通結節点の整備	
		㉚ モノレール等の駅周辺整備	
	【11】新・交通システムの実現	㉛ 次世代モビリティの導入、通信インフラ等の整備	重プロ
		㉜ 新・交通システムに対応する道路空間の整備	
	【12】交通手段の多様化・周遊性向上	㉝ 移動を快適にするソフトインフラの整備	
		㉞ 水上交通システムの構築	

図 5-2 プロジェクト一覧

基本方針①:高度な産業の集積拠点

プロジェクトテーマ: ものづくり産業拠点整備

基本方針①

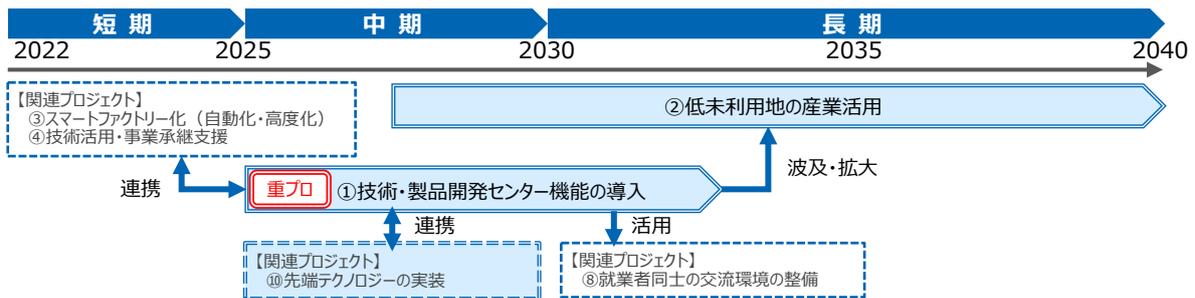
【概要及び実施目的】

- ものづくり分野を中心に新たな価値を創出する産業の一大集積拠点を、空港臨海部に形成します。
- 既存企業の成長促進、新たな挑戦を試みる企業の誘致・育成、研究者や企業同士の交流・協業を行うための拠点施設を整備します。
- 低未利用な公有地などを活用し、ものづくり産業のための実験の場や、就業者のための憩いの場を整備します。

プロジェクト名称及び内容

①	<p>技術・製品開発センター機能の導入 重プロ</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東京都及び民間事業者などと連携し、新製品開発・市場創出を目指す研究開発型企业ラボ、業務発注者と島内企業（特に高度な技術工程）とのマッチング機能を持つ受注センター、事業承継仲介、交流機能を施設整備などに合わせて導入する。 ● 具体的には、市場ニーズを把握する製品開発型企业の誘致を図り、高い技術力を持つ島内企業と協業する新製品開発の拠点とする。島内企業は、顧客の仕様に応じた少量多品種生産のみならず、新たな製品を市場に展開することで、顧客の獲得を実現する。 ● 施設は島内企業とベンチャー企業、大学などと協業するワークスペースや、プロトタイプを共同制作するラボなどを配置する。 <p>想定される地域</p> <p>■ 昭和島、京浜島、城南島など</p>	<p>拠点施設のイメージ</p>
②	<p>低未利用地の産業活用</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 低未利用な公有地を、研究開発型のものづくり産業の立地促進を図る場として有効に活用する。 ● 技術・製品開発センター機能の導入により、島内では研究開発型企业やベンチャー企業の立地や協業が進んでいることが期待され、これらの進出・拡張先として、公有地を活用する。 ● あわせて、就業者のための憩いの場や交流の場としても整備・活用し、企業間の連携が進むような場とすることで、更なる協業を促進する。 <p>想定される地域</p> <p>■ 昭和島、京浜島、城南島など</p>	<p>産業活用のイメージ</p>

プロジェクトロードマップ

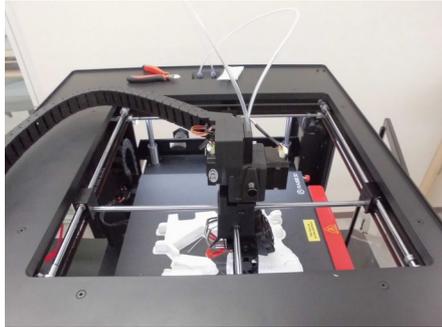
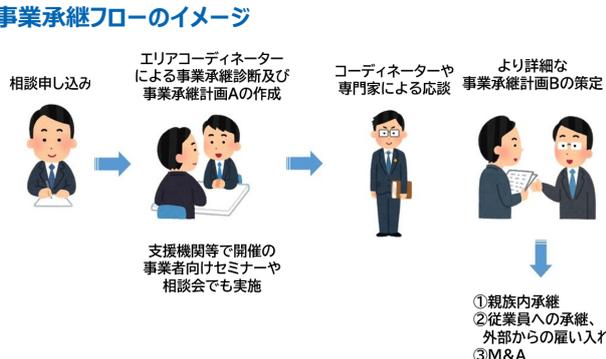


関連部署 産業経済部

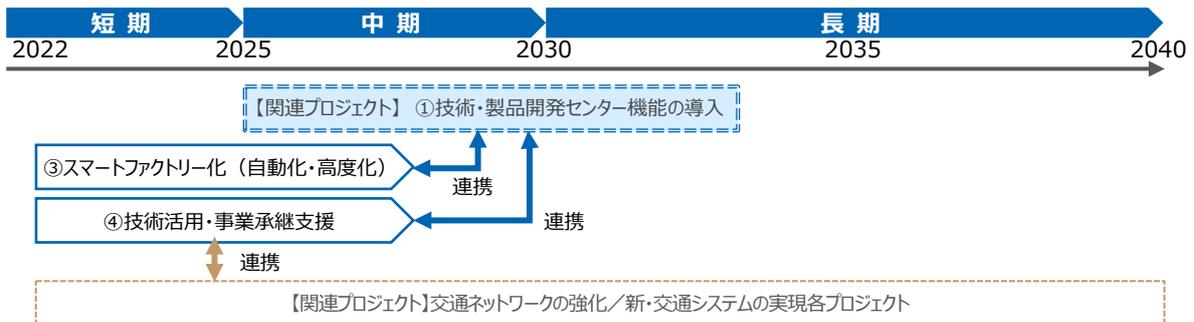
【概要及び実施目的】

- 都心部に近い工業専用地域という空港臨海部の特性を活かしつつ、ものづくり企業におけるIT利活用を進めることで、既存企業の産業競争力を強化します。
- 事業承継を含め新しい人・企業の立地を促すことで、高度な技術力の維持、産業全体の活性化といったものづくり産業が有する課題の解決を図ります。

プロジェクト名称及び内容

③	<p>スマートファクトリー化（自動化・高度化）</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 技術力の高いものづくり企業の生産性向上や受注促進を実現するため、ICT、IoT、3D プリンターなどを活用したスマートファクトリー化を目指す。 ● 具体的には、ICT、IoT を活用した生産管理システムの開発による工程改善やこれと連動した 3D プリンターによる試作品開発、見積作業の省力化、設備の稼働状況の可視化によるトラブル発生監視の効率化などを推進する。 ● IoT 活用を促進する公的施策の導入（実際の導入例あり）も図り、官民一体で島部のスマート化に取り組む。 <p>想定される地域</p> <p>■ 昭和島、京浜島、城南島など</p>	<p>3Dプリンター活用のイメージ</p> 
④	<p>技術活用・事業承継支援</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 島内に立地する企業における研修・研究・事業創出の希望者を募り、互いの知見を持ち寄る場を構築することで新規技術や事業の創出機会を生み出す。 ● 立地企業が後継者不足などを理由に廃業する場合、事業承継を支援する仕組みを設立する。 ● 具体的には、財政投融資やファンド出資、起業家育成などによる新規事業の創出や創業支援とともに、事業引継ぎなどに関する情報提供・助言や企業同士のマッチング支援といった事業承継を一体の施設で実施する。 <p>想定される地域</p> <p>■ 昭和島、京浜島、城南島など</p>	<p>事業承継フローのイメージ</p>  <p>出典）公益財団法人大阪産業局ホームページ「事業承継サポート」事業概要、https://www.obda.or.jp/jigyosyoukei.html、2021年8月6日取得</p>

プロジェクトロードマップ



関連部署 **産業経済部**

【概要及び実施目的】

- 空港臨海部の就業環境としての魅力を高め、立地企業の雇用の維持や拡大を支援します。
- 新たな挑戦を試みる技術者や研究者の誘致の観点から、多様なニーズに対応する就業環境の実現や、就業者同士の交流の場を整備します。
- ものづくり産業拠点整備と連携し、企業と就業者の両方の視点から空港臨海部の産業拠点としての国際的な評価を向上させます。

プロジェクト名称及び内容

<p>⑤</p>	<p>「子育て」環境の整備</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 立地企業の雇用確保・拡大の観点から、多様な人材が空港臨海部で安心して就業できるように、保育施設を設置するなど、子育て層にも働きやすい環境を整備する。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 昭和島、京浜島、城南島など <p><small>出典) 鹿沼木工団地協同組合ホームページ、https://www.kmk-et.com/pages/56/detail=1/b_id=200/r_id=41#block200-41、2022年2月18日取得</small></p> <p style="text-align: right;">保育施設の整備事例（かめま木工団地保育園）</p> 
<p>⑥</p>	<p>「憩い」「食」の場づくり</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空港臨海部で働く就業者や来街者のための「憩い」「食」の場として、港湾緑地や公園といったオープンスペースにキッチンカーや飲食店などを誘致する。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 空港臨海部全域 <p style="text-align: right;">憩い・食の場のイメージ</p> 
<p>⑦</p>	<p>次世代の就業環境の整備</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分に合った働き方を選択できるワーキングスペース（屋外空間を含む）や通信インフラの充実など、多様な働き方のニーズに対応する就業者にとって魅力的な環境を整備する。 ● バス到着時刻の共有や施設予約サービス、自動走行ロボットによる宅配など、新たな技術導入によるスマート化を進め、就業者の利便性の向上を図る。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 空港臨海部全域 <p style="text-align: right;">屋外ワーキングスペースのイメージ</p> 

就業者同士の交流環境の整備

取組内容

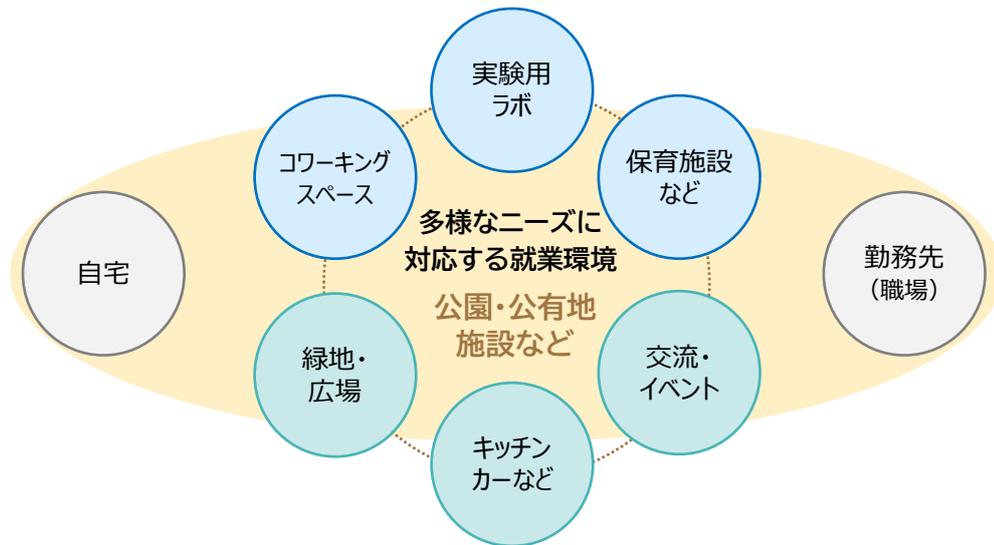
- 空港臨海部で働く人同士や大手企業、ベンチャー企業などの企業間を越えた積極的な交流を促すための拠点やコミュニティなどのソフトインフラを整備する。

想定される地域

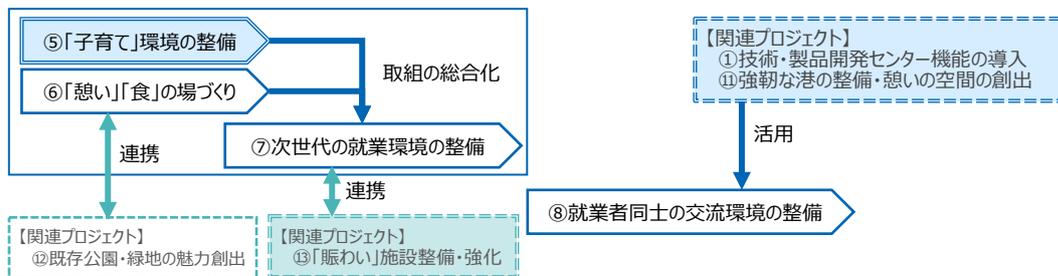
- 空港臨海部全域

⑧

多様なニーズに対応する就業環境の機能構成イメージ



プロジェクトロードマップ



関連部署 産業経済部、都市基盤整備部

【概要及び実施目的】

- 港湾・物流機能の強化、脱炭素化に配慮した港湾機能の導入に向け、AIターミナル、次世代エネルギー・再生可能エネルギーの利活用を図ります。
- 東京都や周辺地域と連携し、東京ベイ eSG プロジェクトなどの実現に向けた都市づくりを目指します。
- 次世代の港湾・物流機能や次世代モビリティなどの新たな技術・製品の実証実験及び先端テクノロジーの実装を促進するとともに、安全で快適な労働環境、賑わいと憩いのある空間を創出します。

プロジェクト名称及び内容

<p>9</p>	<h3 style="text-align: center;">次世代の港湾・物流機能の導入</h3> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 港湾・物流機能の高度化・効率化、脱炭素化に向け「ヒトを支援するAIターミナル²³」の導入、次世代エネルギー（水素、アンモニアなど）・再生可能エネルギー（風力、太陽光など）の利活用を行う。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 令和島など <p>出典) 国土交通省ホームページ、 https://www.kouiki-kansai.jp/material/files/group/15/0315dialogCNP.pdf、 2021年9月3日取得</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="255 627 598 1187" style="width: 45%;"> <p>環境に配慮した港湾のイメージ</p>  <p>臨海部冷蔵倉庫等における次世代エネルギー利活用の拡大</p> <p>次世代エネルギー輸出入・配送拠点となる港湾施設の整備</p> <p>再生可能エネルギー由来の電力等による船舶への陸上電力供給</p> <p>船舶への次世代エネルギー供給体制の強化</p> <p>次世代エネルギー燃料船の開発</p> <p>港荷役機械への燃料電池導入</p> <p>次世代エネルギー燃料</p> <p>トレーラー等向け水素ステーションの整備</p> <p>トレーラー等への燃料電池導入</p> <p>水素発電コージェネシステム</p> <p>冷蔵倉庫等</p> <p>水素ステーション</p> <p>リニア電源</p> <p>ストラドルキャリア</p> <p>荷役機械RTG</p> <p>コンテナトレーラー</p> <p>照明灯</p> <p>コンテナトレーラー</p> <p>照明灯</p> <p>水素ステーション</p> <p>コンテナトレーラー</p> <p>ストラドルキャリア (FCV)</p> <p>荷役機械RTG (FC)</p> <p>次世代エネルギー輸送船</p> <p>次世代エネルギー輸送船</p> <p>ガントリークレーン (FC)</p> <p>陸電供給</p> <p>※FCV: 燃料電池自動車 (Fuel Cell Vehicle) ※FC: 燃料電池 (Fuel Cell) ※RTG: タイヤ式門型クレーン (Rubber Tired Gantry crane)</p> </div> <div data-bbox="606 627 1396 1187" style="width: 45%;"> <p>環境に配慮した港湾のイメージ</p> <p>次世代エネルギー輸出入・配送拠点となる港湾施設の整備</p> <p>再生可能エネルギー由来の電力等による船舶への陸上電力供給</p> <p>船舶への次世代エネルギー供給体制の強化</p> <p>次世代エネルギー燃料船の開発</p> <p>港荷役機械への燃料電池導入</p> <p>次世代エネルギー燃料</p> <p>トレーラー等向け水素ステーションの整備</p> <p>トレーラー等への燃料電池導入</p> <p>水素発電コージェネシステム</p> <p>冷蔵倉庫等</p> <p>水素ステーション</p> <p>リニア電源</p> <p>ストラドルキャリア</p> <p>荷役機械RTG</p> <p>コンテナトレーラー</p> <p>照明灯</p> <p>コンテナトレーラー</p> <p>照明灯</p> <p>水素ステーション</p> <p>コンテナトレーラー</p> <p>ストラドルキャリア (FCV)</p> <p>荷役機械RTG (FC)</p> <p>次世代エネルギー輸送船</p> <p>次世代エネルギー輸送船</p> <p>ガントリークレーン (FC)</p> <p>陸電供給</p> <p>※FCV: 燃料電池自動車 (Fuel Cell Vehicle) ※FC: 燃料電池 (Fuel Cell) ※RTG: タイヤ式門型クレーン (Rubber Tired Gantry crane)</p> </div> </div>
<p>10</p>	<h3 style="text-align: center;">先端テクノロジーの実装 重プロ</h3> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東京都や民間企業などと連携し、次世代エネルギー・再生可能エネルギー、物流車両隊列自動走行、次世代モビリティ、小型無人機などの実証実験を行う場として、周辺道路を含めた広大な土地を活用するとともに、先端テクノロジーを実装する。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 令和島など <p>出典) 公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構ホームページ、 https://www.fipo.or.jp/robot/overview、 2021年7月7日取得</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="255 1276 598 1814" style="width: 45%;"> <p>実証実験の場のイメージ</p>  <p>南相馬市復興工業団地</p> <p>水中・水上ロボットエリア</p> <p>無人航空機エリア</p> <p>開発基盤エリア</p> <p>インフラ点検・災害対応エリア</p> </div> <div data-bbox="606 1276 1396 1814" style="width: 45%;"> <p>実証実験の場のイメージ</p> <p>南相馬市復興工業団地</p> <p>水中・水上ロボットエリア</p> <p>無人航空機エリア</p> <p>開発基盤エリア</p> <p>インフラ点検・災害対応エリア</p> </div> </div>

²³ 大型コンテナ船の寄港の増加による荷役時間の長期化や、コンテナターミナルのゲート前渋滞の深刻化に対応するため、ゲート処理及びターミナル内荷役の効率化を図る取組。

強靱な港の整備・憩いの空間の創出

取組内容

- 港湾周辺の道路において無電柱化を推進するとともに、耐震強化岸壁の整備などにより、災害にも強く、安全な港湾の整備を図る。
- 港湾で働く人や訪れる人が、憩い・交流できるよう、飲食・みどり・交通結節機能を有する空間を創出する。

想定される地域

- 令和島など

休憩・交流施設のイメージ

■みなとの駅（仮称）＜イメージ＞



資料：「Maasvlakte Plaza」（ロッテルダム港）より東京都作成

出典）東京都港湾局港湾審議会第2回長期構想検討部会「資料 4-5」、
<https://www.kouwan.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/2siryou8.pdf>、2021年9月3日取得

物流施設における労働環境改善に向けた機能整備の例



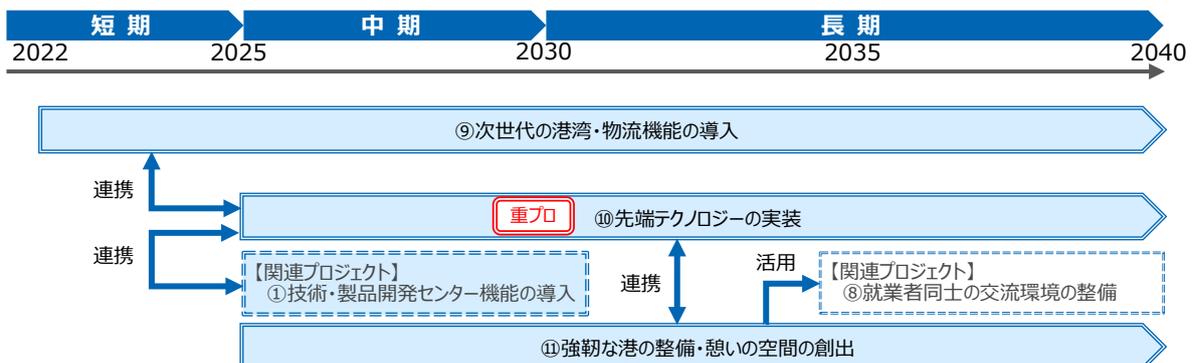
「物流施設」に併設されたカフェテリア



「物流施設」に併設されたコンビニ

出典）東京都港湾局港湾審議会第2回長期構想検討部会「資料 4-5」、
<https://www.kouwan.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/2siryou8.pdf>、2021年12月15日取得

プロジェクトロードマップ



関連部署 産業経済部、まちづくり推進部

基本方針②：人の活動と自然の調和

プロジェクトテーマ：海と緑のレジャー環境整備

基本方針②

【概要及び実施目的】

- 空港臨海部の「働く場」としての魅力を高めるとともに、「遊ぶ・憩う」場としての魅力を高めます。
- 都市部において希少な緑地・海などの自然に関連する多様な体験ができる場として、既存の公園や海域にレジャー環境を整備することで賑わい創出に繋がります。

プロジェクト名称及び内容

<p>12</p>	<h4>既存公園・緑地の魅力創出</h4> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空港臨海部に存在する既存の公園や緑地などをより多くの人に利用してもらうため、情報発信を行うとともに、①キッチンカーの誘致などの賑わい創出に寄与する機能、②誰もが利用しやすいような環境（例：バリアフリー化、授乳室などの子育て世代のための機能）、③スポーツなどによる健康増進を図るための施設の整備により区民を中心とした利用者の増加を図る。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大森ふるさとの浜辺公園、平和の森公園、平和島公園、昭和島二丁目公園、ソラムナード羽田緑地など  <p>大森ふるさとの浜辺公園</p>									
<p>13</p>	<h4>「賑わい」創出のための施設整備・機能強化 重プロ</h4> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パークマネジメント²⁴など、公民連携によりレストランやカフェなど、「遊ぶ・憩う」場として魅力を高めるための施設・空間を既存の公園・緑地、低未利用な公有地を活用して整備する。 ● 賑わい創出のための機能強化のため、公園に新たにレジャー活用区域を設定するなど、火気使用、キャンプなどを含めたレジャー拠点として利用できる環境を整備する。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大森ふるさとの浜辺公園、平和の森公園、平和島公園、羽田空港公園など <p style="text-align: center;">公募設置管理制度（Park-PFI）の概要</p>  <p style="text-align: center;">都市公園</p> <p style="text-align: right;">収益を活用して整備</p> <p style="text-align: center;">民間が収益施設と公共部分を一体的に整備</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">従前</td> <td>カフェ等の収益施設 (公募対象公園施設)</td> <td>広場、園路等の公共部分 (特定公園施設)</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">新制度</td> <td>民間資金</td> <td>公的資金</td> </tr> <tr> <td></td> <td>民間資金</td> <td>収益を充当 公的資金</td> </tr> </table> <p>出典) 国土交通省「令和2年度 PPP/PFI 推進説明会」資料、 https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanminrenkei/content/001329492.pdf、2021年8月13日取得</p>	従前	カフェ等の収益施設 (公募対象公園施設)	広場、園路等の公共部分 (特定公園施設)	新制度	民間資金	公的資金		民間資金	収益を充当 公的資金
従前	カフェ等の収益施設 (公募対象公園施設)	広場、園路等の公共部分 (特定公園施設)								
新制度	民間資金	公的資金								
	民間資金	収益を充当 公的資金								

²⁴ 官民連携手法の導入により、都市公園の管理運営の効率化と魅力向上を両立する手法や取組。

水辺と水域の賑わい創出

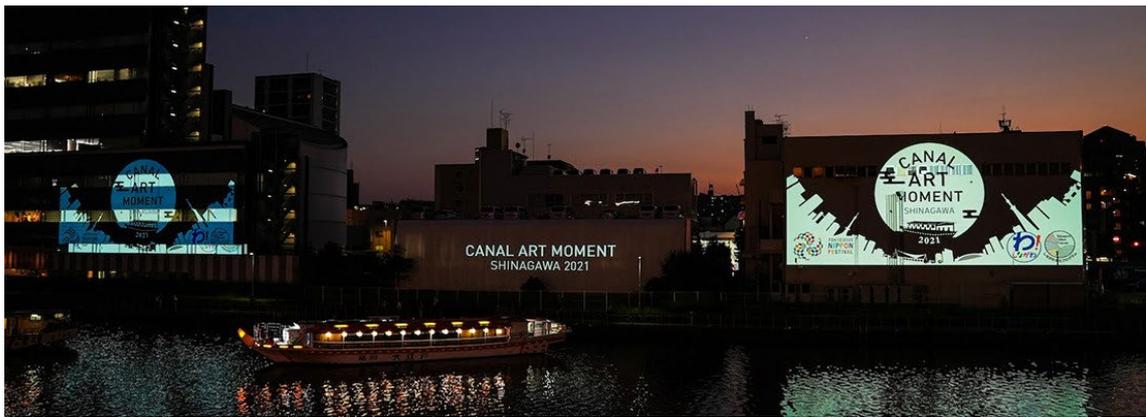
取組内容

- レジャー活用水域の設定など、水上利用のための制度整備を行う。
- 水上レストランなど、水辺と水域の賑わい創出のために多様な利活用を行うための仕組み（管理・運営のための組織組成など）を作る。

想定される地域

- 流通センター駅・大田市場周辺、羽田イノベーションシティ周辺など

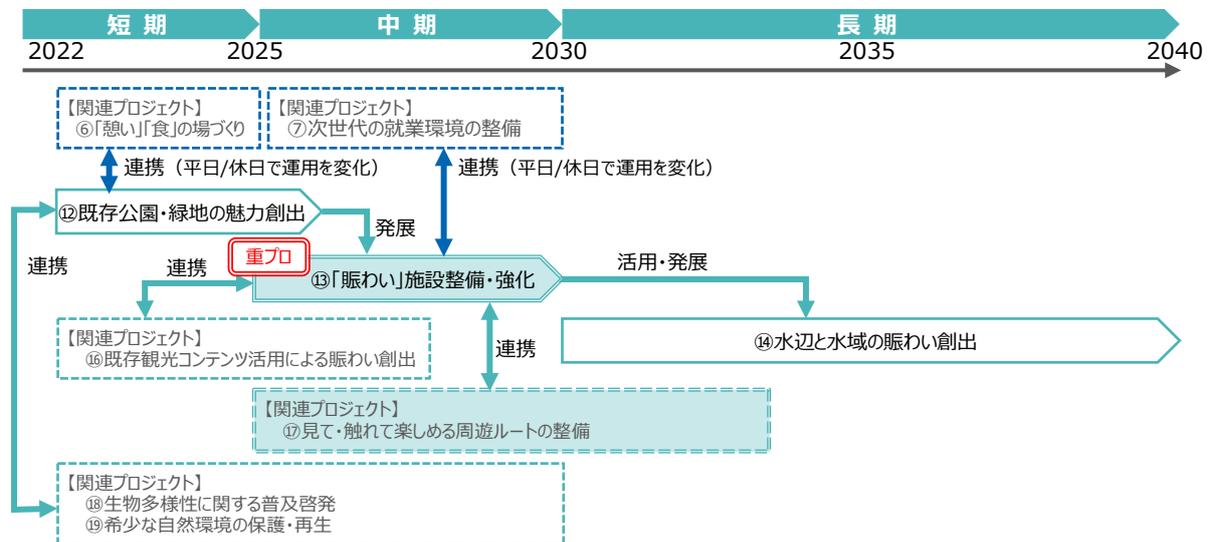
水辺におけるイベントの例（天王洲 キャナルフェス）



出典) 一般社団法人 天王洲・キャナルサイド活性化協会ホームページ、
<http://canalside.or.jp/>、2021年12月15日取得

14

プロジェクトロードマップ



関連部署 都市基盤整備部、まちづくり推進部、空港まちづくり本部

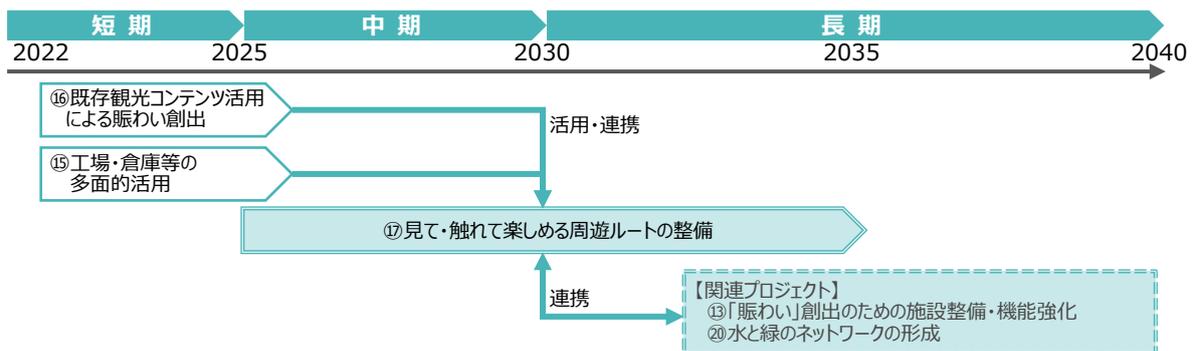
【概要及び実施目的】

- 空港臨海部の資源の多面的活用により新たな観光コンテンツを創出するとともに、既存観光コンテンツの活用や周遊ルートの整備により空港臨海部の認知度向上、空港利用客の取込みによる賑わいを創出します。

プロジェクト名称及び内容

<p>15</p>	<p>工場・倉庫等の多面的活用</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空港臨海部に存在する工場・倉庫などの民間施設の活用や音楽イベントの開催など、空港臨海部における新たな観光コンテンツを創出する。 ● 工場・倉庫だけでなく、周辺の道路空間についても時間や時期を限定した形でコンテンツの創出を図る。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 東海、平和島、京浜島など <div data-bbox="922 483 1388 846"> <p>屋外イベントの事例</p> <p>鉄工島フェス（京浜島）</p> <p>大田臨海部まちづくり協議会イベント（おたの水辺観光フェス） 写真提供：アークベル㈱</p> </div>
<p>16</p>	<p>既存観光コンテンツ活用による賑わい創出</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空港臨海部にある既存観光コンテンツのプロモーションを図るとともに、環境整備を行い、活用を促進することで賑わい創出に繋げる。 ● 既存観光コンテンツを活かし、新たに創出される観光コンテンツへの誘客を図る。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 城南島、大田市場周辺、羽田イノベーションシティ周辺など <div data-bbox="963 913 1385 1227"> <p>既存観光コンテンツの事例</p> <p>ART FACTORY 城南島</p> </div>
<p>17</p>	<p>見て・触れて楽しめる周遊ルートの整備</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 夜景などの景観スポットの整備や道路空間に海辺で育つ樹木を植えるなど、見て楽しめる周遊ルートを整備するとともに、観光拠点となる施設を整備する。 ● 海辺の散策路の整備や多摩川沿いの親水空間の創出など自然に触れることができる散策ルートを形成する。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 京浜運河、羽田イノベーションシティ周辺など <div data-bbox="970 1294 1378 1603"> <p>夜景演出の事例</p> <p>羽田イノベーションシティからみる夜景</p> </div>

プロジェクトロードマップ



関連部署 観光・国際都市部、まちづくり推進部、空港まちづくり本部、都市基盤整備部

【概要及び実施目的】

- 空港臨海部が有する希少な自然環境の保護・再生に加えてグリーンインフラ²⁵の利活用などを通じて、大田区における自然共生社会を実現します。
- 都心部に近い工業専用地域という特性と、希少な自然環境の双方を活用し、空港臨海部の就業環境の魅力向上や観光コンテンツの創出に寄与します。

プロジェクト名称及び内容

<p>18</p>	<p>生物多様性に関する普及啓発</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 希少な自然環境であり、区民にとっての憩いの場となるような緑地・水辺などにおいて、生物多様性に関する情報発信、市民参加型の生物調査などを通じて生物多様性に関する普及啓発を行う。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 東京港野鳥公園、大森ふるさとの浜辺公園など <p>出典) 国土交通省中部地方整備局、 https://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/oshirase/oshirase/20170806yadagawa/index.html、 2021年12月10日取得</p> <p style="text-align: right;">市民参加型の生物調査のイメージ</p> 
<p>19</p>	<p>希少な自然環境の保護・再生</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都心部における希少な自然環境のモニタリングや環境整備を国や東京都、区民と連携して実施するとともに、水質改善などの活動に対しては、インセンティブを付与するなどにより自然保護と再生を行う。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 空港臨海部全域 <p>出典) 海上保安庁「東京湾環境一斉調査」ホームページ、 https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/Monitoring/General_survey/、 2021年8月13日取得</p> <p style="text-align: right;">官民連携による水質調査のイメージ</p> 

²⁵ 自然環境が有する機能を、社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方。

水と緑のネットワークの形成 重プロ

取組内容

- グリーンインフラの考え方にに基づき、空港臨海部が有する多様な自然環境や生物多様性を保全し、人々が良好な環境で健康に過ごすことができる持続可能で魅力ある地域づくりを図る。
- 屋上緑化や自然環境と調和したオフィス空間などの形成、道路空間の緑化・透水性舗装、ビオトープなどの水辺空間を整備し、水と緑のネットワークを形成する。

想定される地域

- 空港臨海部全域

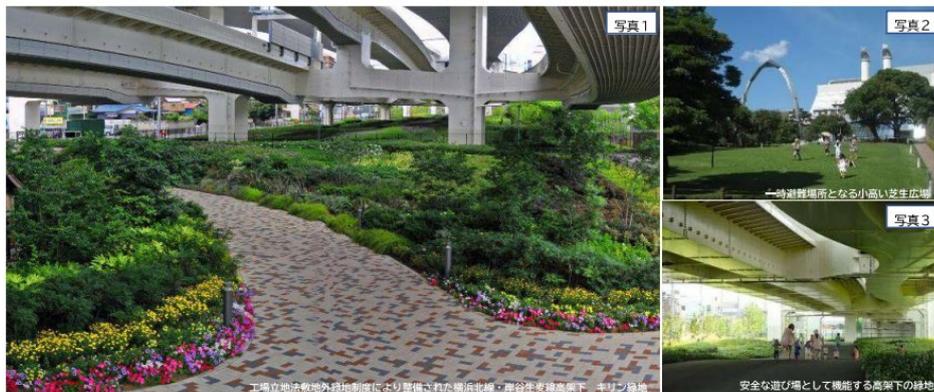
グリーンインフラの考え方



- 防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献等、地域課題への対応

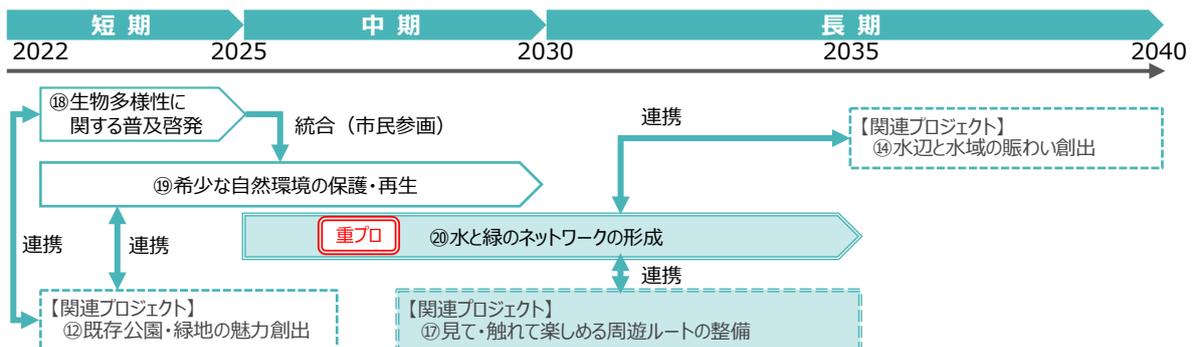
- 持続可能な社会、自然共生社会、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資への貢献

グリーンインフラの事例（グリーンインフラ大賞 都市空間部門 優秀賞 キリンビル横浜工場）



出典) 国土交通省「グリーンインフラポータルサイト」、
https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000143.html, 2021年12月13日取得

プロジェクトロードマップ



関連部署 まちづくり推進部、都市基盤整備部、環境清掃部

【概要及び実施目的】

- 地球温暖化対策として空港臨海部においてもブルーカーボン(海草などによる炭素の取込み)の活用や循環型社会の実現に向けた取組を進めます。
- 産業面においてもエネルギー利用の効率化や再生可能エネルギーの利用、技術開発を促進することにより、低炭素化・脱炭素化の世界的な潮流に対応し、国際競争力を高めます。

プロジェクト名称及び内容

脱炭素化の推進

取組内容

- 空港臨海部の施設・低未利用地などに太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入により脱炭素化を進める。
- 工場のスマート化、拠点整備に合わせた AEMS²⁶や ZEB²⁷の導入など、既存技術を活かして地域におけるエネルギー利用の効率化・最適化を図る。
- 砂浜や干潟にアマモなどの海草の生育・再生を行い、CO₂の吸収を促す。

想定される地域

- 空港臨海部の公共施設、低未利用地、工場・事業者の拠点、大森ふるさとの浜辺公園など

カーボンニュートラルの産業イメージ

電気はすべて脱炭素化し、産業部門の電化を進める
水素は、発電・産業・運輸など幅広く活用されるキーテクノロジー
CO₂は回収し、カーボンリサイクルや地中貯留(CCS)へ

出典) 経済産業省「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」広報資料、
<https://www.meti.go.jp/press/2020/12/20201225012/20201225012.html>、2021年8月13日取得

²⁶ Area Energy Management System の略称で、電力使用形態の異なる需要家を組み合わせ、効率的な電力融通を実現すること。

²⁷ Net Zero Energy Building の略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物。

次世代エネルギーインフラの整備支援

取組内容

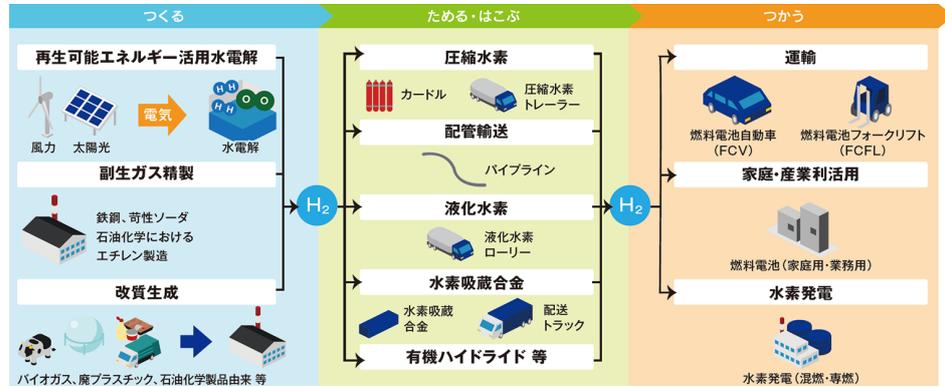
- FCV²⁸などの環境に配慮した公共交通機関に対応する次世代エネルギー供給ステーションの整備など、新たなエネルギーインフラの整備及び構築支援を行う。

想定される地域

- 空港臨海部の交通結節点など

脱炭素化に向けた水素サプライチェーン

22



出典) 環境省「脱炭素化に向けた水素サプライチェーン・プラットフォーム」
https://www.env.go.jp/seisaku/list/ondanka_saisei/lowcarbon-h2-sc/demonstration-business/index.html
 2021年8月13日取得

循環型社会の実現に資する技術開発支援

取組内容

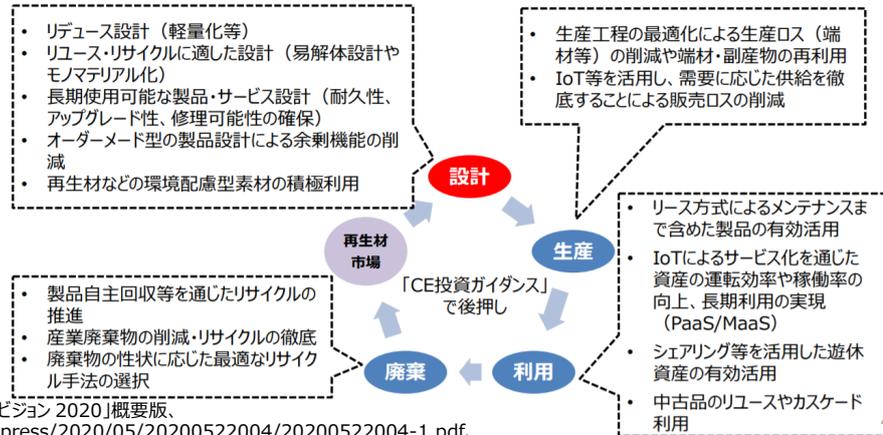
- 民間事業者などが既存技術を活かし、空港臨海部において循環型社会の実現に資する技術開発を行うことに対し、支援を行う。

想定される地域

- 空港臨海部全域

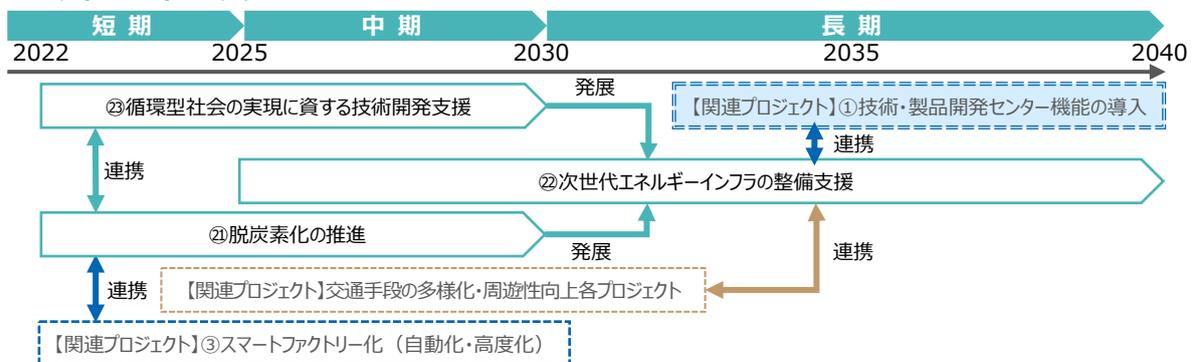
循環性の高いビジネスモデルの例

23



出典) 経済産業省「循環経済ビジョン 2020」概要版
<https://www.meti.go.jp/press/2020/05/20200522004/20200522004-1.pdf>
 2021年8月13日取得

プロジェクトロードマップ



関連部署 産業経済部、まちづくり推進部、環境清掃部

²⁸ 燃料電池自動車(Fuel Cell Vehicle)の略称で、燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車。

基本方針③:次世代のインフラ整備

プロジェクトテーマ: 交通ネットワークの強化

基本方針③

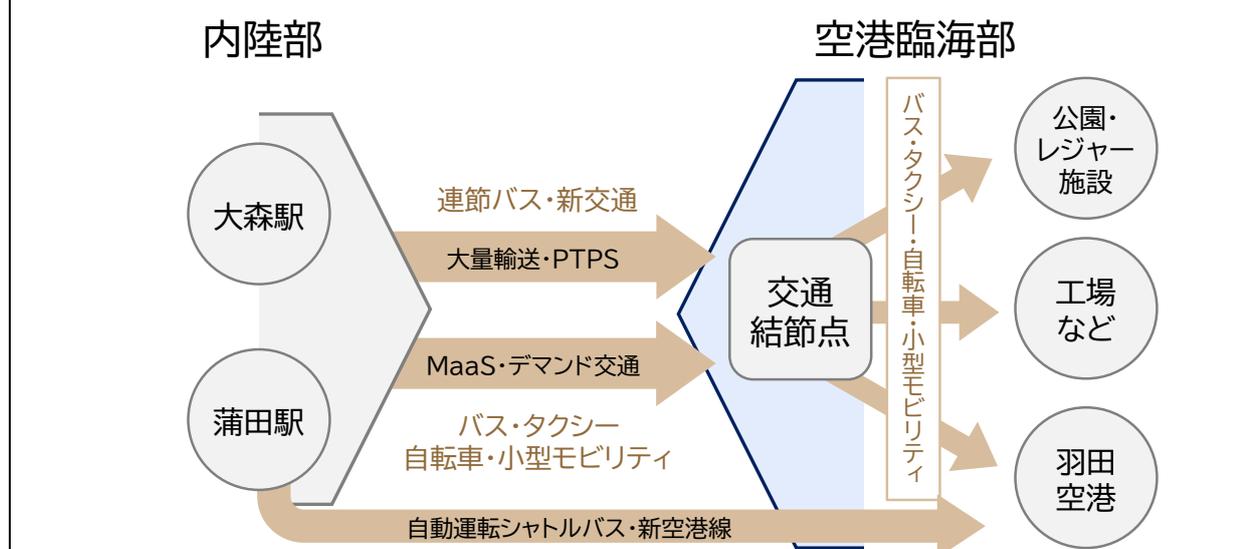
【概要及び実施目的】

- 「南北軸」、「東西軸」、「周遊軸」の強化・形成による空港臨海部と内陸部・島間のアクセス強化を図り、就業者や来街者の利便性向上、物流機能の強化による産業競争力を高めます。

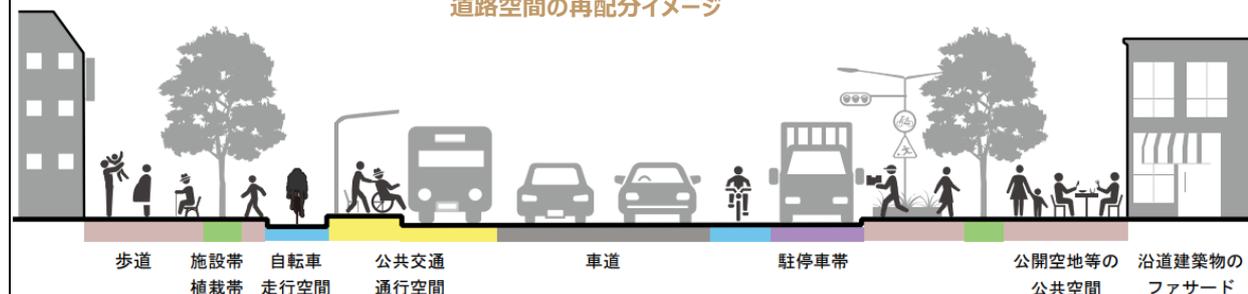
プロジェクト名称及び内容

<p>②4</p>	<p>「東西軸」の強化・形成 重プロ</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東西軸の強化のため、大森駅～臨海部間のバス通りを中心に、大量輸送、時間帯による優先道路化を推進するとともに、PTPS²⁹や MaaS などの交通システムの活用を図る。 ● 放射 18 号線、補助 36 号線など、都市計画道路の整備を促進する。 ● 既存道路空間の再配分や機能向上のための道路整備を行う。
<p>②5</p>	<p>「周遊軸」の強化・形成</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物流の円滑化や安全面を強化するため、京和橋などの交通渋滞緩和を図る。 ● 空港臨海部へ安全かつ円滑に移動するための道路・設備などの整備を行う。 ● 自転車などパーソナルモビリティの利用促進を図る。

内陸部～空港臨海部交通アクセス強化のイメージ



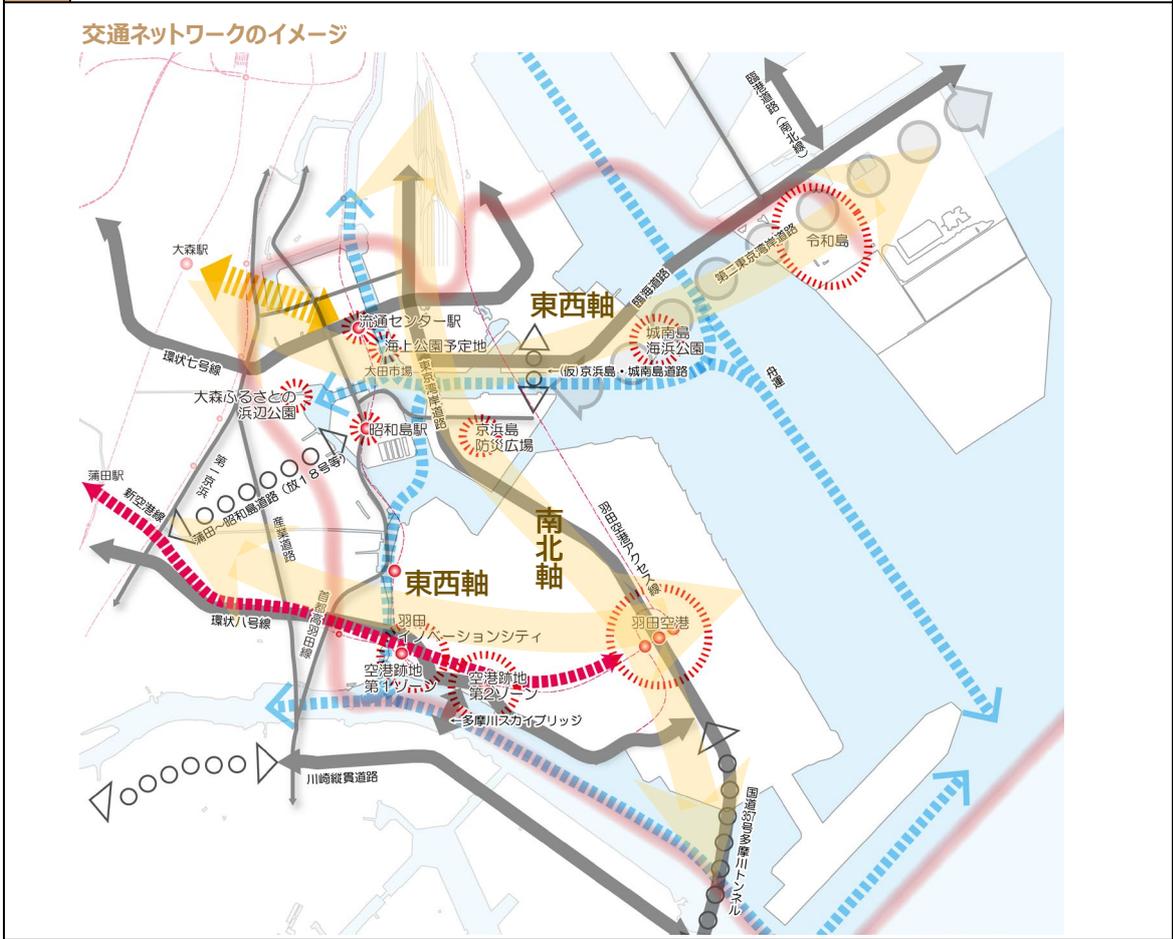
道路空間の再配分イメージ



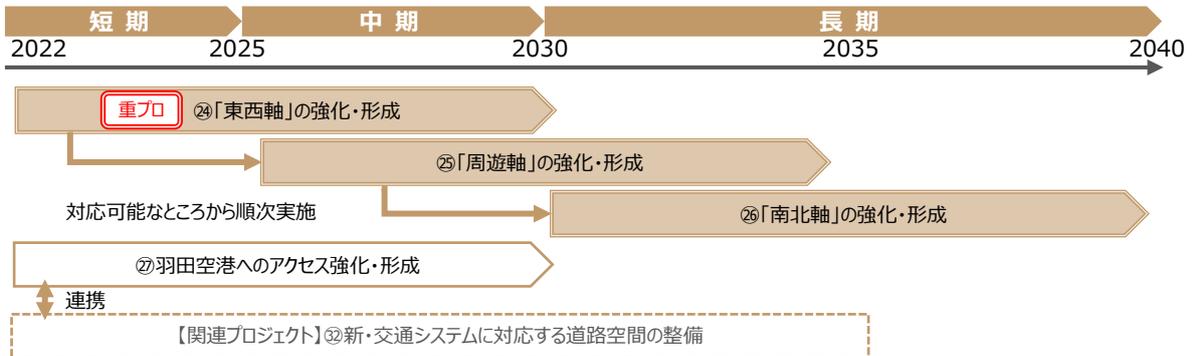
出典) 国土交通省 ストリートデザイン懇談会 第 3 回資料、<https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001315303.pdf>、2021 年 12 月 15 日取得

²⁹ 公共車両優先システム(Public Transportation Priority System)の略称で、交通管理者の交通管制システムとバス事業者のバスロケーションシステムとを有機的に結合した新たな公共車両優先システム。

「南北軸」の強化・形成	
26	取組内容 <ul style="list-style-type: none"> ● 国道 357 号の立体化、多摩川トンネル、第二東京湾岸道路の整備促進、東京外かく環状道路などの整備を促す。 ● 交通量の分散化、道路ネットワークの強化を図るために、海岸通り（都道 317 号）の昭和島から環状八号線までへの延伸などを促す。
羽田空港へのアクセス強化・形成	
27	取組内容 <ul style="list-style-type: none"> ● 羽田空港へのアクセス強化に向け新空港線の整備を行う。 ● MaaS による空港利用者の移動のフレキシビリティ向上、連節バス導入による輸送キャパシティ増加、自動運転シャトルバスの運行などを行う。



プロジェクトロードマップ



関連部署 鉄道・都市づくり部、まちづくり推進部、都市基盤整備部

【概要及び実施目的】

- 就業者や来街者の利便性向上を目的として、空港臨海部の交通結節点の拠点機能を強化します。
- 整備する拠点は空港臨海部の災害対応力強化・BCP 強化の観点から、災害時には復旧・復興の拠点として活用できるような機能をもたせます。

プロジェクト名称及び内容

防災拠点機能の強化

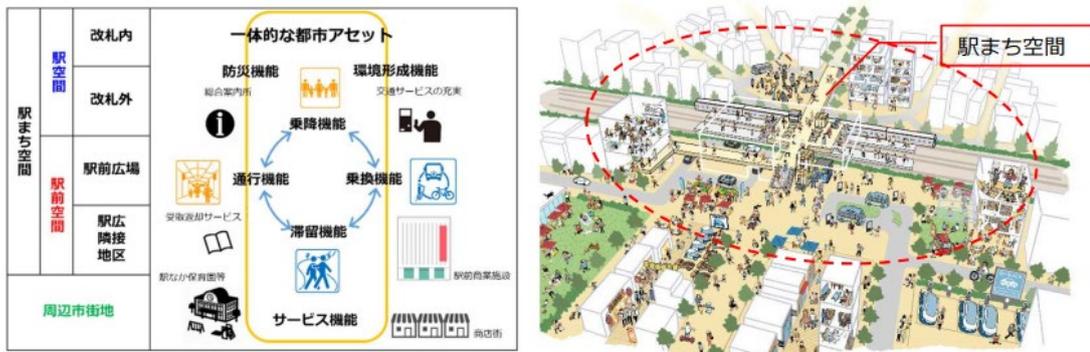
取組内容

- 空港臨海部の既存施設などを活用しつつ、災害時に「食、水、電気など」を島部の地域に供給する防災拠点機能を整備、強化する。
- 大規模災害時や感染症発生時にも活用できるオープンスペース（公園・道路など）の整備を行う。

想定される地域

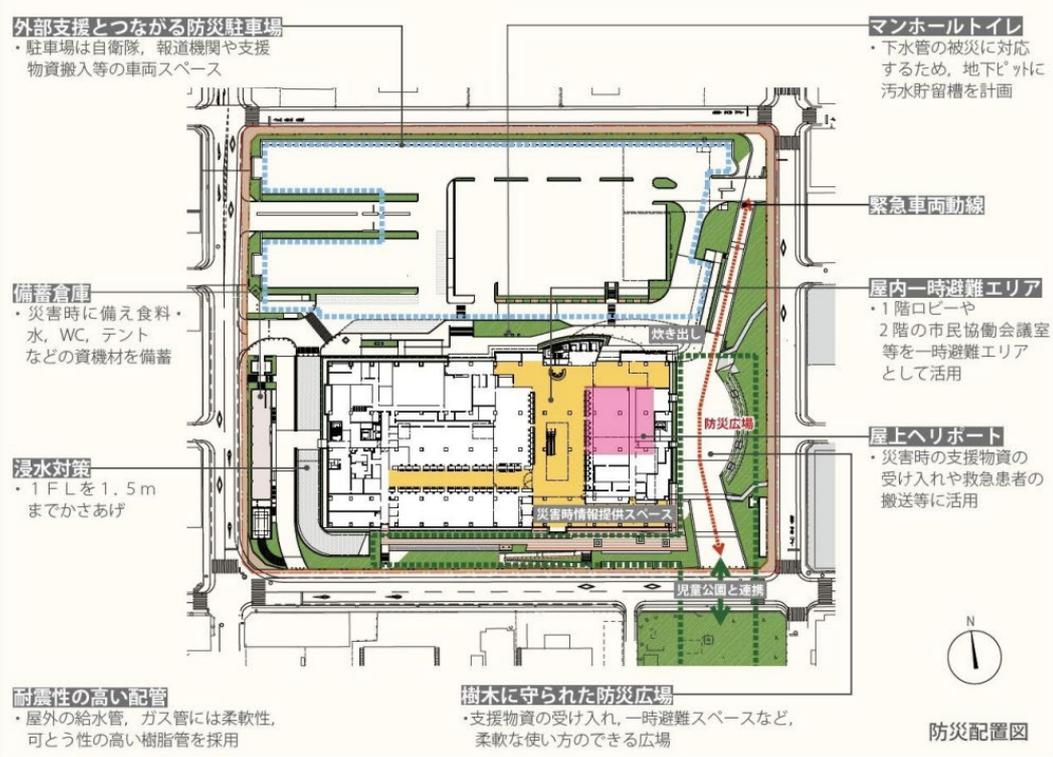
- 流通センター駅周辺、羽田イノベーションシティ周辺など

交通結節点に求められる機能全体のイメージ



出典) 国土交通省「駅まちデザイン検討会「駅まちデザインの手引き」、<https://www.mlit.go.jp/toshi/content/001428118.pdf>, 2021年12月15日取得

防災拠点の機能イメージ



出典) 国土交通省「防災拠点等となる建築物の機能継続に関する事例集」、<https://www.mlit.go.jp/common/001292553.pdf>, 2021年8月13日取得

交通結節点の整備

取組内容

- 交通結節点整備されていない地域については、空港臨海部の周遊性向上のために必要な交通結節点を新設する。
- 既存の交通結節点及び新設する交通結節点は、災害時の一時的な避難場所への活用など、防災の機能も踏まえた整備を行う。

想定される地域

- 京浜島、令和島、羽田インベーションシティ周辺など

様々な交通モードの接続・乗り換え拠点のイメージ



出典) 国土交通省道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」、<https://www.mlit.go.jp/road/vision/pdf/01.pdf>、2021年8月13日取得

モレール等の駅周辺整備

取組内容

- 立地ポテンシャルに応じた段階的な交通結節機能の導入を図る。具体的には、自動運転バスやパーソナルモビリティの乗降所など、新たな交通システムの導入に合わせて機能拡張を行う。
- 施設の建替えや開発を機に民間活力を活用し、交通結節機能を整備する。

想定される地域

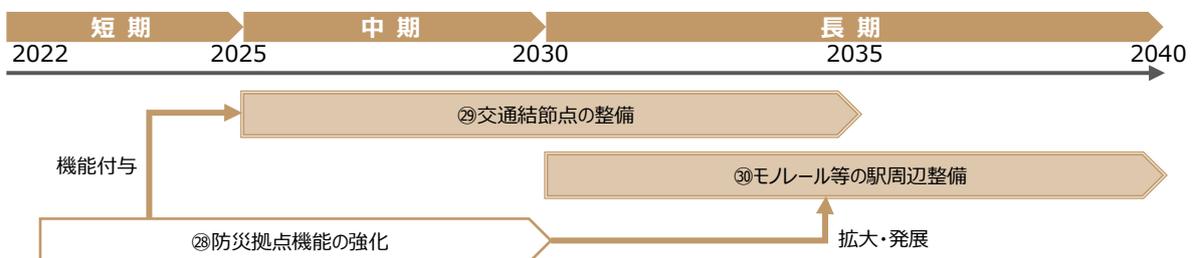
- 流通センター駅、天空橋駅など

都市交通ターミナルのイメージ



出典) 国土交通省道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」、<https://www.mlit.go.jp/road/vision/pdf/01.pdf>、2021年8月13日取得

プロジェクトロードマップ

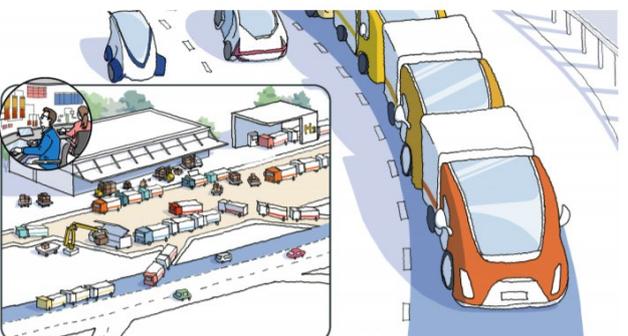


関連部署 鉄道・都市づくり部、まちづくり推進部、空港まちづくり本部、都市基盤整備部

【概要及び実施目的】

- 空港臨海部の交通円滑化のために自動運転バス・パーソナルモビリティなどの新技術を導入します。
- 新技術を導入した新・交通システムに対応するために、燃料補給の拠点、通信インフラの整備、専用レーンの設置などの道路空間の整備を図ります。

プロジェクト名称及び内容

31	<p>次世代モビリティの導入、通信インフラ等の整備 重プロ</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自動運転バスやパーソナルモビリティなど、新・交通システムを担う次世代のモビリティ³⁰の導入を図る。次世代モビリティの導入にあたっては、EV・FCV など環境負荷の小さいものの導入を促し、持続可能な社会の実現に寄与する。 ● 自動運転バスやパーソナルモビリティなどのサービスを提供するために必要となる通信インフラや乗降所などを空港臨海部の交通結節点や拠点施設に整備する。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 空港臨海部全域 	<p>低炭素な交通システムのイメージ</p>  <p>出典) 国土交通省道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」、https://www.mlit.go.jp/road/vision/pdf/01.pdf、2021年8月13日取得</p>
32	<p>新・交通システムに対応する道路空間の整備</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自動運転バスや物流トラックの隊列走行、パーソナルモビリティなどの新・交通システムに対応するため、専用レーンの設置などの道路空間の整備を図る。 ● 将来的な水上交通システムなどを含め、多様な交通手段に対応する道路空間・交通結節点を整備する。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 空港臨海部全域 	<p>隊列走行の専用道路と連結・解除拠点のイメージ</p>  <p>出典) 国土交通省道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」、https://www.mlit.go.jp/road/vision/pdf/01.pdf、2021年8月13日取得</p>

プロジェクトロードマップ



関連部署 **都市基盤整備部、まちづくり推進部**

³⁰ 環境性能に優れた自動車(燃料電池自動車や電気自動車、天然ガス自動車など)や空飛ぶクルマ、ドローンなどを指す。

【概要及び実施目的】

- 内陸部から空港臨海部、島内・島間の周遊性向上を図るために、移動を快適にするソフトインフラの整備を行うとともに、航路・空路を含む多様な交通手段による交通ネットワークの拡充を行います。

プロジェクト名称及び内容

33	<p>移動を快適にするソフトインフラの整備</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 内陸部から空港臨海部、島内・島間の移動を途切れなく快適なものとするため、京浜島・流通センター・大森ふるさとの浜辺公園などを交通結節点とし、空港臨海部各所への移動・周遊のためのパーソナルモビリティの導入に加え、MaaSシステムなど、ソフトインフラの整備を行う。 ● 並行して実施する道路空間の整備や MaaS システムの導入に合わせて、空港臨海部におけるパーソナルモビリティの公道利用に関する規制緩和を図る。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 空港臨海部全域 <p>出典) 国土交通省ホームページ、 https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/japanmaas/promotion/ 2021/4/30 取得</p>	<p>MaaS システムのイメージ</p>
34	<p>水上交通システムの構築</p> <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 空港臨海部の周遊性向上、羽田空港とのアクセス強化などのため、航路を活かした水上交通ネットワークの構築、自動運航船の導入など、舟運を空港臨海部の新たな交通手段として確立する。 <p>想定される地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大森ふるさとの浜辺公園船着場、羽田イノベーションシティ周辺船着場など 	<p>舟運のイメージ</p> <p>舟運ルートイメージ</p> <p>舟運社会実験 (大田区)</p>

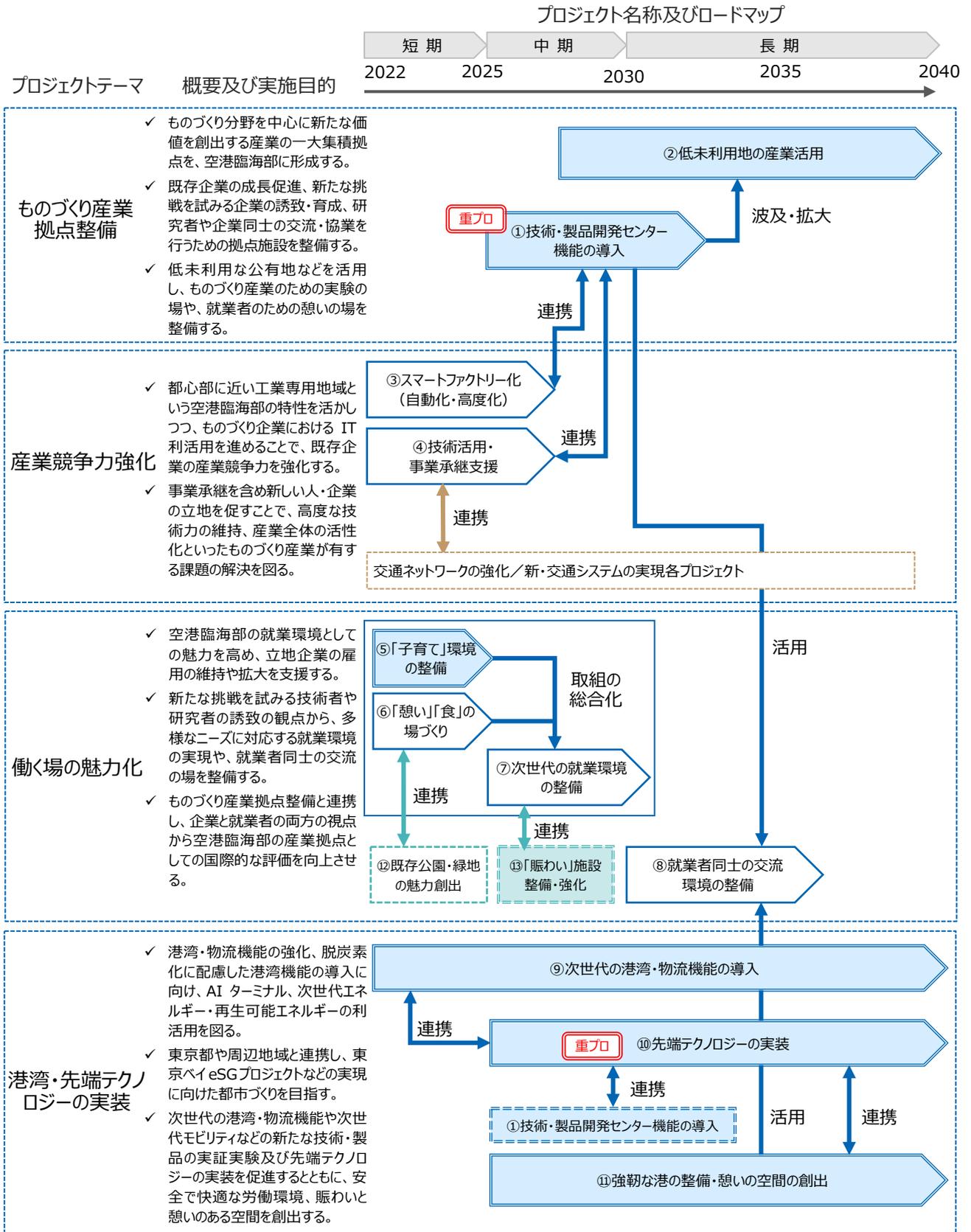
プロジェクトロードマップ



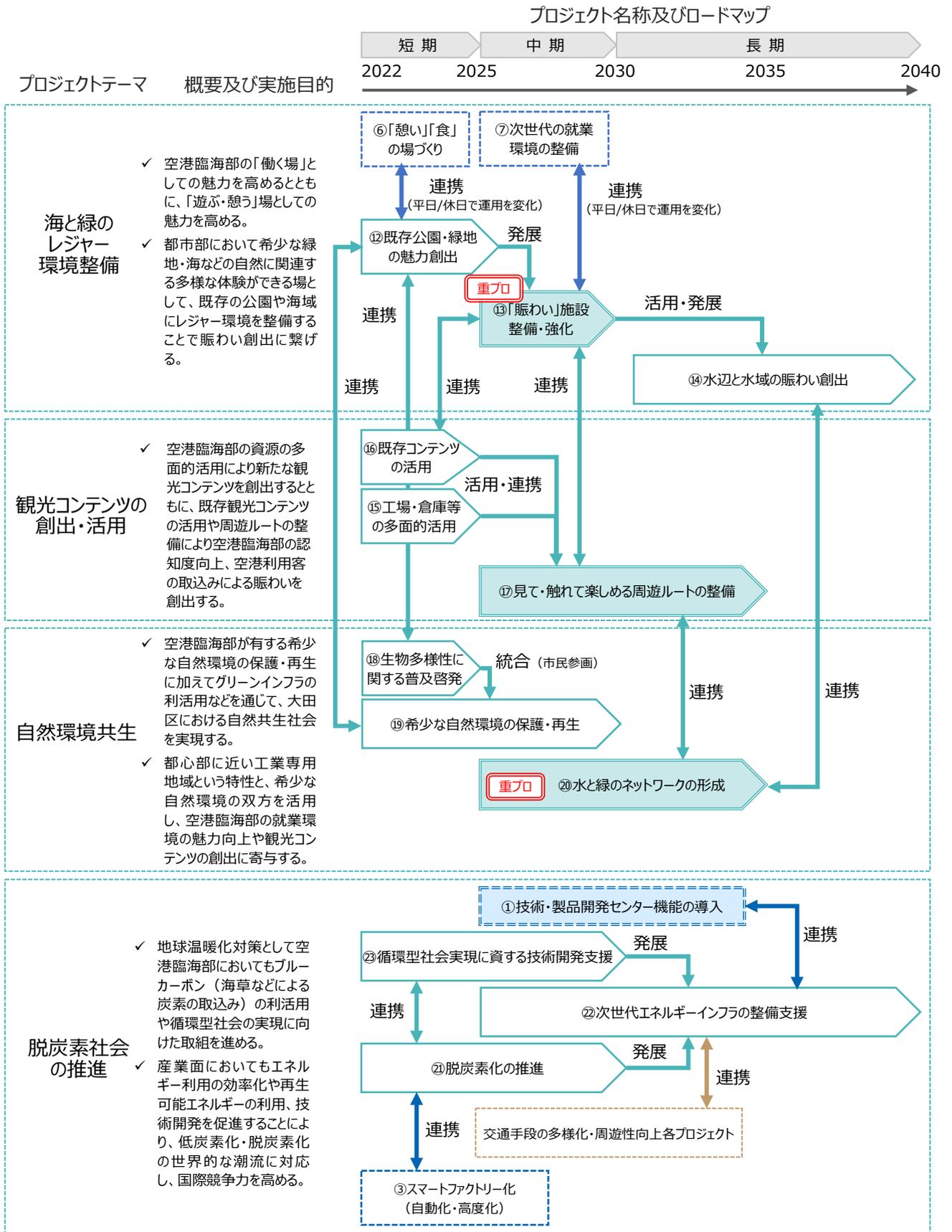
関連部署 まちづくり推進部、都市基盤整備部

5.3 プロジェクトロードマップ

基本方針①:高度な産業の集積拠点



基本方針②:人の活動と自然の調和



基本方針③:次世代のインフラ整備

